

「おれは鉄兵」の親文をゆく

およそ行儀というものが無く非常識極まりない少年が、八方破れの剣道で対戦相手を翻弄してゆく様子が小気味よく、我が家の絶大な人気であった。

五十年ほど昔、僕の家族五人全員で愛読した漫画本。少年漫画、ちばてつや作の「おれは鉄兵」（王臨学園入学編）である。

主人公の家族は、親父と息子の鉄兵を除いて、みな品行方正で勉学も優秀ということになっている。

親父は大蔵官僚であったようだが、とびきりの変わり者で、埋蔵金探しに転じて、もっぱら野山暮らしをしている。息子の鉄兵は、親父の出走時に背中の籠に隠れて、結局親父と一緒に行動となって野生化して育った。

ストーリーは、あくまで野性味と無類の発想を發揮する鉄兵中心で、作者は当世の「様に型に嵌まった」志向の若者を心配して、「個性發揮の自由」を世に訴えたかったようである。

我が家では単なる愛読書というより、学校の教科書とは別に、見習っても良いような生き方が詰まった、いわば教本だった。小学生であった子供たちと一緒に笑って熱中。子供が大きくなって家庭を持つようになってからも、その子供つまり僕の孫にも読ませた。今でも全十三巻、本棚に並ぶ蔵書である。

あれから半世紀も経って、

僕は「おれは鉄兵」の親父が妙に気になるようになった。

というのは、最近の小生（以下へりくだるべきかと思っただので、

自称は「僕」でない方がよいのかと）の生き方は、「おれは鉄兵」

の親父の路線を辿っているような気がしてならない。



イラストは漫画原本から一部を転載

目下小生は、没頭しないと気が済まないことが二つ三つあって、いずれも真面目な取り組みのことと心得て修験者の心境になれればいい、などと大真面目に考えている。

ところが、そのバランスを取るように、真面目な取り組みとは真逆の「博打」心が芽生えてしまったかも知れない。

ロトという、予想数字を自分で選んで購入する富くじである。

ロトについては、そもそもが（ウインドウズ）エクセルのスキルを高めるのが目的で取り組んだ、あくまで手段であった。

ところが次第に、ロトの予想表づくりに入れ込むようになって、ひよっとして当選するかも知れない！などという局面が現れて期待値が高まるようになった。結局、手段が目的と入れ替わったようになった。

面白いもので、偶にかすった程度の結果が出ると、以後惨敗続きでもすぐ次の期待感で予想表に取り掛かるようになるのだ。

これって、博打心理というものなのだろうか？

もしそうだとしたら、自分自身の信条に対して、許しがたい罪を犯していることになってしまふ。

実は、小生は元来がパチンコとか競輪・競馬の類を忌み嫌ってきた。小生の親父が一時そういったことに打ち込んで母を泣かせてきたことがあったので、それが反面教師となって、少し真面目な今昔となったのだ。

「おれは鉄兵」の親父が浮かんできたのは、そういう経緯からだ。続けるべきか？辞めるべきか？躊躇している。

躊躇するのは、期待で夢が膨らむと、不思議と強いエネルギーを得て、本来の真面目な三つほどの取り組みに一層の元気をもらえるようになるからだ。

もう少し、「おれは鉄兵」の親父路線を続けてみようと思っ。